

## 学会・シンポジウム報告

## 第12回アジア太平洋州畜産学会(AAAP)参加報告

泉 賢一

酪農学園大学 附属農場

2006年9月18日から22日まで韓国の釜山にあるBEXCOというコンベンションセンターを会場に、第12回アジア太平洋州畜産学会(AAAP)が開催された。釜山は豪華ホテルの建ち並ぶ海雲台というビーチリゾートと、新鮮な魚介類で埋め尽くされたジャガルチ市場に代表される庶民の港町という対極的な顔を持った海の街である。日本からは非常に近く、九州地方からの参加者は航路で訪れた方も見受けられた。

## 学会の概要

学会は初日のオープニングセレモニーから始まり、いくつかのサテライトシンポジウムを挟みつつ5日間の会期であった。AAAPへの参加は初めてであったが、対象となる動物は家畜全般に加え野生動物や伴侶動物まで網羅されており、研究のテーマも多彩である点など日本畜産学会の国際版という印象を受けた。

研究のテーマは、アジアを中心とした国々から研究者が集まることから、地域の特色が現れており興味深いものが多かった。例えば次にあげるようなものがあった。

## 特色のある発表

- ・資源を有効に利用した畜産という観点から副産物利用に関するテーマが多かった。ワラ、キャッサバ、バナナ、サトウキビ、大豆皮、トマトパルプなど多岐にわたっていた。
- ・韓牛(Hanwoo)に関するテーマが多かった。遺伝的改良、飼養技術、肉質など。後日、韓国からの留学生にこの点について尋ねたところ、現在、韓国の畜産業界は国を挙げて韓牛の発展に力を注いでいるということであった。そのため、酪農は押され気味であるようだ。
- ・多彩な家畜たち。水牛、ラクダ、ブラーマン牛、ヤクなど。ラクダと生活との関わりについての発表ではパキスタンの文化についても学ぶことができた。

搾乳や肉利用は言うに及ばず、鬮ラクダ(?)までおこなわれるそうである。

- ・韓国でも米の消費減少は深刻なようで、ブタに米を給与する試験もみられた。
- ・稲発酵飼料についてのサテライトシンポジウムが企画される。日本と韓国が中心であった。
- ・韓国において、放牧を利用した有機畜産の可能性についての研究がみられた。

以上、私の専門である反芻家畜を中心に紹介した。特に注目させられたのが、これまで何度か参加したことのある欧米の学会とは異なり、副産物を中心とした自給飼料の有効利用とコストの削減に関するテーマが数多くみられたことである。私の所属する酪農大附属農場においても、2006年は原油価格の上昇やバイオエタノールの普及に伴う飼料費の高騰を身に染みて経験した。今後もこの傾向は弱まることはないと思定される中、近隣のアジア諸国で行われている畜産システムは一つの方向性を示唆しているのではないだろうか。今回のAAAPでは、そのような思いを改めて実感した。

## 学会の雰囲気、釜山の街並み

今学会は1,250以上の発表があった。この規模は過去のAAAP史上、最も大きなものであるようだ。したがって、会の運営は苦勞を極めたと思われる。例えば、フェアウエルディナーでは私を含む多くの参加者が席に着くことすらできず右往左往することになってしまった。話は前後するが、学会初日のウエルカムレセプションでは食事の際にアルコール類としては松茸酒なるものしか供されなかった。フレンチ系のコース料理に対して、独特な風味の松茸酒のみ。このディナーはプラチナスポンサーである一企業の招待であり、松茸酒はその企業の商品であったことを考慮しても、微妙な組み合わせであったことは事実である。

学会は規模が大きすぎて、このように小回りのきかない部分もうかがえたが、ひとたび釜山の街を散策す

るとビーチは風光明媚，市場を中心とした下町では生活のパワーが感じられる素晴らしい街であった。研究発表で数多くみられた韓牛はやや高価であったが，新鮮な魚介類や豚肉，ホルモンなどを食べてもおいしかった。日本から近い割にはソウルほど知名度も高くないかもしれないが，機会があれば何度でも足を運びたくなる街であった。

### 台風13号による混乱

私が釜山に向けて出発した9月17日に台風13号が韓国と九州の間の海上を進んでいた。その影響から釜山行きが欠航となったが，それを知ったのは中部国際空港に着いてからであった。私の発表は翌日であることから途方に暮れていたところ，偶然にも三重の後藤教授に声をかけられた。後藤先生もAAAPに参加なさるとのことで，道中を共にしましょうと誘っていただいた。行き当たりばったりの海外渡航は初めてであり，チケット，宿，列車の手配など海外経験の豊富な先生に教えていただきながらソウル経由で釜山入り

することができた。お互い全くの初対面であったが気詰まりなこともなく（私だけか？），先生の研究に取り組む姿勢など貴重なお考えを聞くことができた。時間的に強行軍であった上に，臨時の出費も痛かったが，発表には無事間に合うことができた。災難ではあったものの，そのことで得難い経験を積むことができ，後藤先生には感謝している。旅は道連れ世は情け，とは良く言ったものである。

今回は韓国をはじめとするアジア諸国の文化に触れることができ，なおかつトラブルの対処法や人との出会いの大切さを学ぶことができた。このような経験を学生の指導や自分の研究に役立てたいと感じた1週間であった。

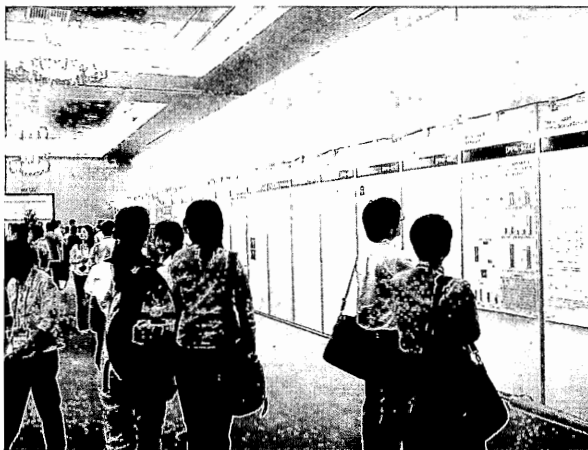
なお，次回のAAAPは2008年にベトナムで開催されることが決まっている。



台風を伝えるニュース番組



日韓の交流には古い歴史がある



台風の影響で不参加が目立つポスターセッション